

公務員受験指導についての考察

伊藤 圭一

I はじめに

2019年度より本学（豊橋創造大学短期大学部）に公務員別科が誕生します。これまで、キャリアプランニング科公務員コースで行ってきた公務員受験指導を1年間で行います。

東三河地域の高校生は地元で働きたいという意欲が強いです。また、一方で、東三河地域の各団体もより優秀なやる気のある積極的な人材を集めたいという動きもあります。実際に、こういった職業に触れる機会が合っても、その先の受験指導をすることは、採用側にはできない現状があります。加えて、公務員の就職活動の多くは高校3年生の時に行われており、高校での学習や部活動との両立の中で公務員の採用試験に内定するのは困難が予想されます。公務員として活躍したい熱意のある若者、採用する側から適職性のある若者に受験指導を提供することは、地域に役立つ人材を育てる社会的な需要につながります。豊橋創造大学短期大学部公務員別科は、高校時代から公務員を志していたものの、機会に恵まれず進路を変える、もしくは他地区の学校に進学せざるをえない若者に学習の機会を提供すべく設置されました。

単なる公務員受験指導に留まらず、公務員として社会に貢献したい若者と、優秀な地元の人材が欲しいという団体との懸け橋となるべく教育を実施していきます。受験指導に留まらず、即戦力として活躍できるように、また、その期待に応えられるように、地域の将来を見た教育を行ってまいります。地元で学ぶことを最大限に活かして、学びを進めて行けるのが公務員別科です。意欲のある若者に地元で貢献してほしいという願いを込めて開設いたしました。したがって、男女の別は問いません。加えて学びの負担を軽くするために学費も抑えてあります。

II 公務員受験指導の現状

II-1 公務員試験のイメージ

「公務員試験は倍率も高い激戦の試験に違いない」というイメージをお持ちの方も少なくはないようですが、実際にデータを見ると意外な事実が浮かび上がってきます。受験人数が最も多く、圧倒的な人気を誇る特別区であっても5.8倍の競争倍率ですが、これをさらに

細かく見ると、1次合格者は4,219名で1次競争倍率は3.0倍です。そのうち最終合格者数は2,176名ですから、1次合格者は1.9人にひとりが最終合格しているという驚くべき倍率が浮かび上がってきます。自治体によって倍率に差はあるものの、こうしたデータを見ていただくことで、少なくともイメージだけで公務員試験の厳しさを決めつけるべきではないと言えます。難関と思われている筆記試験の倍率自体も実はそれほど高くはないことがわかります。公務員試験の実態は知る人ぞ知る状態なのです。このイメージだけで多くの若者は公務員になることを諦めています。

■2017年度代表的な主要都市の競争倍率					
自治体	①受験者数	②1次合格者数	③最終合格者数	①÷②	①÷③
札幌市	1,361名	290名	186名	4.7倍	7.3倍
仙台市	797名	140名	96名	5.7倍	8.3倍
特別区	12,683名	4,219名	2,176名	3.0倍	5.8倍
横浜市	2,537名	1,175名	383名	2.2倍	6.6倍
名古屋市	857名	155名	71名	5.5倍	12.1倍
大阪市	869名	299名	77名	2.9倍	11.3倍
広島市	701名	304名	118名	2.3倍	5.9倍
福岡市	580名	57名	33名	10.2倍	17.6倍

各自治体の公表資料より

公務員と聞いて想像するのは、市役所などの窓口で住民票を発行している人たちではないでしょうか。そしてそんな人たちを見て「公務員は楽そうでいいなあ。5時には窓口閉まるから毎日定時だし」と思っているのではないのでしょうか。窓口で受付などをしている人たちは確かに公務員ですが、地方公務員の中の事務職という職種の職員です。

ただし、最近は窓口業務を民間委託している自治体も増えてきているため、職員として活躍している姿を見ることがほとんどないかもしれません。ですので、窓口の人たちを見て「公務員は～」と考えるのは早計すぎるでしょう。加えて、もうひとつよくある誤解は、安定で楽な仕事に就きたい若者にテクニックだけ教えて合格させる＝公務員受験指導だと思っ誤解をされていることです。それも違うと申し上げたいです。公務員試験について受験する側にもそして教員の側にも誤解があるのは残念なことです。

II-2 実際の公務員試験

では、公務員はどんな種類があるのでしょうか。大きく分けると国家公務員と地方公務員に分類できます。

国家公務員には、国家公務員総合職・国家公務員一般職・国税専門官・財務専門官・労働基準監督官・法務省専門職員・航空管制官・裁判所職員・家庭裁判所調査官・国立国会図書館職員・衆議院事務職員・参議院事務職員・自衛官幹部候補生・食品衛生監視員・皇居護衛官などがあります。地方公務員には、都道府県職員・市町村職員・国立大学法人・公安系公

務員（警察・消防）・教職員などがあります。受験生の大半は、国家公務員であれば国家公務員総合職・一般職、国税専門官、財務専門官、労働基準監督官、裁判所事務官、地方公務員であれば自分の住んでいる自治体と都庁や特別区、そして国立大学法人と、これらを試験日程が被らないように併願していくというのがよくあるパターンです。公務員試験は日程さえ被らなければいくつでも受験できます。

Ⅱ-3 公務員試験の出題

公務員試験の最初の関門は何と言っても一次試験と呼ばれる筆記試験を通過することです。どんなに公務員になりたいと思っけていてみ、まずは筆記試験に合格しなければならず、そして一次試験に合格するのも決して簡単なことではなく、ほとんどの場合、20科目ほどの勉強をしなければならないためしっかりとした対策が必要となります。公務員試験は、「教養択一試験」「専門択一試験」「論文試験（教養）」「面接試験」が課せられるのが一般的です。試験によっては専門択一試験がない場合や、専門記述試験や適性検査が課せられるケースもあり、東三河地域では専門択一は専門職試験以外では行われない場合がほとんどです。特に、教養択一試験は公務員試験を突破する上で非常に重要な試験となり、まずはこれらを攻略することが必要になります（択一試験とは5肢択一問題のことで5択から一つ選択する形式です）。それぞれの科目の詳細については以下のとおりとなります。

教養択一試験には「一般知能」と「一般知識」があり、それぞれの科目は次のようになります。一般知能は文章理解（現代文、古文、漢文、英文）、数的処理（数的推理、判断推理、資料解釈）から構成されます。一般知識は人文科学（日本史・世界史・地理・思想・文学・芸術）、自然科学（数学・物理・化学・生物・地学）、社会科学（政治・法律・社会・経済）から構成されます。

まず、一般知能の文章理解は現代文や英文などの長文を読解するものです。「要旨把握」「内容把握」「空欄補充」「文章整序」の4つの形式で出題されます。数的処理については、数的推理、判断推理、資料解釈に分類され、数的推理は小中学校でやった算数、判断推理はパズルや図形的な問題、資料解釈は与えられた資料を読み取り正しいものを選ぶ、というものです。数的処理はどの試験でも必ず出題される上に出題数が多いため非常に重要な科目です。しかし、苦手とする人が多くやっかいな科目でもあるため、早めにしっかりと対策していくことが必要となります。この科目には解き方のコツがあり、やる気があればすぐに身につけることができます。

一般知識は基本的には高校で学ぶ科目であり、難易度としてはセンターレベルと考えるといいでしょう。大学生ですと、大学受験でどれだけ勉強したかが、ここにかかる労力の差となって現れてきます。高校卒業程度の場合は、高校時代の学習量に比例してしまいますので受験までに、それを意識して学習することが必要になります。一般知識は暗記が中心となってくるため、科目が膨大なため、他の重要科目をいかに早めに終わらせることができるかがポイントとなります。

論文試験は「教養論文」とも言われるもので、受験生の「考察力」「論理力」「表現力」

などが試される試験です。文字数は800～1500文字、時間は60～90分で行われるのが一般的です。出題テーマは、国家公務員・地方公務員ともに「行政課題型」というものが多く、自治体によっては「自己PR型」「志望動機型」といった形式も出題されます。

行政課題型の内容では「魅力あるまちづくり」「〇〇県の課題・将来像」「災害対策」「ワークライフバランス」など、こうしたテーマについて国や自治体としてやるべき対策について論述します。自己PR型の内容では「これまで主体的に取り組んできたこと」や「努力した経験」などを述べ、そこで学んだことや職員として働く上でどのように活かせるのか、といったことを述べます。志望動機型の内容では「なぜその自治体を志望するのか」「どのような仕事をしたいのか」といった、志望する自治体の現状や施策について把握し、仕事をイメージして「〇〇に取り組みたい」という内容を書くことになります。

ここまでは対策をすることで何とかできます。内定には次に面接試験が大きなハードルになります。面接試験はどの試験を受けるにせよ必ず課せられる試験です。この面接試験が内定への大きなカギになります。

II-4 避けて通れない面接試験

面接試験の形式としては、「個別面接」「集団面接」「集団討論」など、受験先によって様々です。

個別面接は、受験生1人に対し面接官が3～5人という形式で行われます。質問内容としては、志望動機ややりたい仕事、自己PR、受験先の政策についてなど様々です。時間は15～30分程度ありますので、しっかりと内容について事前準備をする必要があります。

集団面接は、受験生が3～10人に対して面接官が3～10人という形式で行われます。質問内容は個別面接とほぼ変わりませんが、他の受験生が自分の用意していた答えを言う可能性があるため、個人面談よりも対策が必要になります。

集団討論はグループディスカッションとも言われたりしますが、5～10人のグループであるテーマについてディスカッションをし、3～5人ほどの面接官が討論の様子を見てシートにチェックをして評定します。時間は40～90分と幅がありますが、60分で行われることが多いです。集団討論は個別面接や集団面接では見ることができない協調性やリーダーシップ、バランス感覚などを評価することを目的としています。

近年、公務員試験は面接重視の傾向になっていることから、様々な形式で受験生を評価するようになってきています。これまでのように、志望理由を丸暗記して望めば受かるものでもなくなっていますし、画一的な対策では合格できない試験になってきています。

人事の方から「専門学校などで受験対策をしてきた人は見てわかるし、受験生自身の意見として評価できない」と指摘されています。画一的な受験対策や指導をするのはかえって受験生の足を引っ張る時代になってきました。

II-5 偏差値とリンクしない公務員試験

偏差値は大学受験を経験された方であれば馴染みの深いものですが、公務員試験について

は基本的にそういったランキングはあてはまりません。大学受験は単純に「偏差値」というわかりやすい指標で判断することができるため、試験が難しいほど偏差値が高い（難易度が高い）ということができます。しかし、公務員試験は筆記試験だけでなく面接試験も重視されているので、筆記試験でいくらいい点数を取っても採用に至らないケースはいくらでもあります。次のような2人がいる場合、どちらが優秀かを判断することは難しいのはお分りでしょう。

- ・筆記試験が満点だったが面接が苦手で不合格だった人
- ・筆記試験の点数は低かったが面接が得意で合格した人

公務員試験はこうしたことが往々にして起こるものです。こうしたことを難易度としてランキング付けできるはずがありません。このように、公務員試験に最終合格するには様々な要素が含まれているので、単純に試験が簡単・難しいという基準で受験先を決めてしまう事はやめておくべきです。勉強だけをしてきた人に比べ併願者（たくさん試験を受けてきた人の方が試験慣れしていてコミュニケーション力も上がります）や社会人のほうがコミュニケーションのレベルはもちろん高いので、そのような受験生と戦わなくてはならないということ覚えておいてください。

受験勉強をするのは当たり前、それ以上に何をしてきたかを問われるのが現在の公務員試験になります。

Ⅲ 本学の公務員指導

Ⅲ-1 公務員試験支援センターの設置

公務員になりたくなったら質問に行くことができる場所があることがまず、重要と考えて組織を設置していただきました。大学・短大では専門的な学びを中心に勉強しています。この組織は、そこから外れてしまう教養分野の対策を中心に行います。加えて、多く採り入れられるようになってきているSPI試験についても対策します。常勤教員2名から組織されています。支援内容は以下の通りです。

〈公務員の仕事を知る〉

【インターンシップ】

市役所系のインターンシップのアドバイスを行います

〈希望の皆さんに基本的な学びの機会を提供〉

【対策講座の実施】

春休みなどにSPI対策講座と公務員試験対策講座などの集中講座を行います

通常講義の空き時間にも講座を実施します

〈個人に合わせた指導〉

【受験勉強の相談】

どのテキストを使うのか、受験対策の方法などの相談を受け付けます

【問題に対する質問】

わからない問題の質問を受け付けます

〈勉強だけではなくて〉

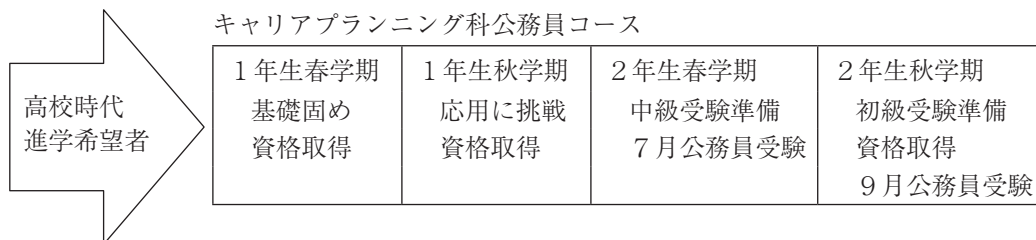
【出願から面接まで】

出願書類の整え方から筆記試験・面接指導を通じて公務員内定まで指導します。学習指導はもちろんですが、それに加えて、官公庁のインターンシップは専門学校生では受け入れてもらえません。そのことに早く気が付いてインターンシップに出かけ職業について学ぶ橋渡しを行います。インターンシップ先にも積極的にでかけて、求められる人物像について指導する側としても学び、学生に指導するときの参考にします。大学や短大は普段の講義や行事、サークル活動などを通じて人間形成はなされています。そこで身につけている力を最大限、面接で発揮できるようにする指導を行います。

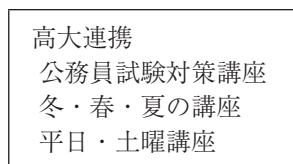
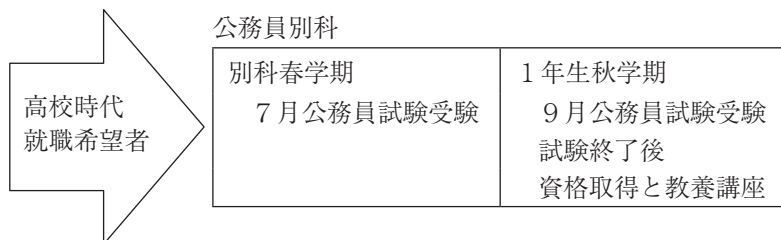
Ⅲ-2 公務員コースと公務員別科、高大連携講座の棲み分け

基本的には高校への案内は進学クラスには公務員コース、就職クラスには公務員別科になります。

〈指導の棲み分け〉



別科は1年足らずで試験を受けます。また、進路の変更もできませんので、入学審査の時点で①3年生時での公務員受験経験②入学後の公務員受験予定（自衛隊まで受験を考えているか）などを面談し入学を許可します。



※高大連携の公務員講座は時間数も少なく扱う科目も社会科学と数的処理に限られます。

Ⅲ-3 教員のための公務員指導セミナーの実施

本年度、平成30年6月27日に教員のための公務員受験指導セミナーを実施しました。これは公務員試験支援センターが開設されたことを地域の高校の先生方にお知らせするとともに、公務員試験支援センターが地域の先生方に貢献をするために活動をしていることを知っていただくためです。その存在を学外にも告知することで公務員受験指導に悩まれている先生方の悩みが少しでも解決できるような情報提供の場を設けることを目的として実施しました。

受験日程、学習のポイント、面接のポイントに加えて採用する側からの講話を実施しました。

- ・内容 ① 公務員試験日程一覧の説明
- ② 学習指導のポイント紹介
- ③ 面接指導のポイント紹介
- ④ 求められる人物像
(採用側からの講話…豊橋市役所・豊橋市消防総務・愛知県警を予定)
- ⑤ 希望の先生には16時30分から行うフォローアップ講座の見学可能

特に豊橋市役所の人事課の方をお招きできたことは大きかったです。地域に貢献する姿勢がより一層示すことができたと思います。

Ⅳ 展望

東三河各自治体やその他の各地方公共団体の採用担当の方々が、精力的に高校に職業説明に実施されていることから、高校生を含め地域に貢献できる人材を育成すること、且つ、地域を離れず地域に貢献する人材を採用側が必要としていることは明らかです。また、高校側も学生らが公務員試験に再チャレンジの場所を地元で求めています。そのことは数字には表れてこないが、地元の人材が欲しいという人事の方の声をまとめると地域的な人材需要と必要性はあると考えられます。

客観的データとしては西三河の高校生が東三河の地方公務員を受験していないことが挙げられます。公務員になるのであれば本来は地元で貢献したいと考えている客観的な証拠と考えられます。そもそも公務員試験は、高校よりも先の高等教育を必要としない「高校卒業程度」の採用試験が多く実施されているところから採用の側の人材需要は十分にあると考えられます。

また、公務員は高校生がなりたい職業ランキングで総合2位、男子高校生においては1位、女子高校生においては8位です¹⁾。男子高校生の公務員になりたい意欲は高く、高校以上の高等教育を必要とせず早く採用されたいという受験者の需要が多く存在すると言えます。加えて保護者が就いて欲しいと考える職業ランキングでは公務員が1位です。進路を考えるもう一方の柱である保護者からの需要も高く、受験者の親子を合わせてみると公務員になって働きたい需要も高い水準であることが言えます。

採用したい需要、働きたい需要、双方の需要に別科は応えることができます。

キャリアプランニング科の公務員コースの在席数も3倍に増えています。女子のみの公務員コースに需要があるので、この地域の男子高校生にも需要は同じか、それ以上にあると考えられます。多くの若者が公務員試験にチャレンジできるような環境づくりをしていきたいと考えています。

1) 〈資料1〉

高校生と保護者に聞いた！将来就きたい&就いてほしい職業とは

【高校生全体】 就きたい職業ランキング20

- 1位 教師 8.6%
- 2位 公務員(国家・地方、警察・消防・自衛隊) 8.3%
- 3位 看護師 7.3%
- 4位 製造業(自動車・造船など) 6.5%
- 5位 保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連 5.9%
- 6位 建築士・建築関連 4.3%
- 7位 薬剤師 3.3%
- 7位 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ 3.3%
- 7位 俳優・アイドル・ミュージシャン・声優・芸能関連 3.3%
- 10位 美容師・理容師・ヘアメイクアーティスト・エステティシャン・美容関連 3.2%
- 11位 管理栄養士・栄養士 2.6%
- 12位 調理師・シェフ・パティシエ・フード関連 2.5%
- 12位 技術者・研究者 2.5%
- 14位 会社員 2.3%
- 15位 社会福祉士・介護福祉士・福祉関連 2.1%
- 15位 空港職員・航空関連 2.1%
- 15位 エンジニア・プログラマー・IT関連 2.1%
- 18位 ファッションデザイナー・スタイリスト・アパレル 2.0%
- 19位 診療放射線技師・臨床検査技師 1.9%
- 19位 画家・イラストレーター・アニメーター・CGデザイナー・芸術・ゲーム関連 1.9%
- 19位 トリマー・動物関連 1.9%

※992人が回答

【男子】 就きたい職業ランキング10

- 1位 公務員(国家・地方、警察・消防・自衛官) 15.5%
- 2位 教師 11.3%
- 2位 製造業(自動車・造船など) 11.3%
- 4位 建築士・建築関連 9.3%
- 5位 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ 4.4%
- 5位 エンジニア・プログラマー・IT関連 4.4%
- 7位 技術者・研究者 3.9%
- 8位 画家・イラストレーター・アニメーター・CGデザイナー・芸術・ゲーム関連 3.2%
- 9位 調理師・シェフ・パティシエ・フード関連 2.7%
- 10位 薬剤師 2.0%
- 10位 美容師・理容師・ヘアメイクアーティスト・エステティシャン・美容関連 2.0%
- 10位 会社員 2.0%

※407人が回答

【女子】 就きたい職業ランキング10

- 1位 看護師 11.5%
- 2位 保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連 9.6%
- 3位 教師 6.7%
- 4位 俳優・アイドル・ミュージシャン・声優・芸能関連 4.6%
- 5位 薬剤師 4.4%
- 5位 管理栄養士・栄養士 4.4%
- 7位 美容師・理容師・ヘアメイクアーティスト・エステティシャン・美容関連 4.2%
- 8位 公務員（国家・地方、警察・消防・自衛隊） 3.2%
- 8位 空港職員・航空関連 3.2%
- 8位 ファッションデザイナー・スタイリスト・アパレル 3.2%

※565人が回答

【保護者】 就いてほしい職業ランキング5

- 1位 公務員 27.4%
- 2位 看護師 12.7%
- 3位 医療関連全般 9.4%
- 4位 教師 8.5%
- 5位 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ 5.2%

※212人が回答

出典元：リクルート進学総研

第7回「高校生と保護者の進路に関する意識調査」2015年調べ

回答数：高校生1887人、保護者1584人